

○氏 名：大浜 好暁 (おおはま よしあき)

○会員番号：PEN-0019

○専門分野：Mechanical(Machine Design Depth)

○受験日：2008 年10 月26 日(日)／東京・芝浦工業大学・豊洲キャンパス

○PE 試験挑戦回数：1 回目

○使用した参考書、問題集：

(1) Lindeburg/Mechanical Engineering Reference Manual for the PE Exam Twelfth Edition

(2) NCEES/Mechanical Engineering Sample Questions & Solutions

(3) 学生時代に使用していた教科書類 7～8 冊

その中で特に役立ったのが、

①工学のための力学(上・下) ヘアー/ジョンストン著/長谷川節訳 グレイン図書出版/丸善 第4 章～第17 章

②振動解析の理論と応用(上) マイビッツ著/砂川恵訳 グレイン図書出版/丸善 第1,2 章

①,②とも原著はアメリカの大学教科書だからか、説明が平易で、かつ例題/問題がPE 試験と非常によく似ています。

○勉強時間：勉強期間は8 月～10 月(3 ヶ月間)

勉強時間は平日平均 1 時間(通勤時間30 分および帰宅後30 分)、

土日祝日は平均8 時間(会社の会議室)

○試験場に持参した図書類：上記6 と同じ、加えて英和辞書(試験中数回使いました。)



1. 合格体験記：

①受験動機

入社以来十余年、今までの仕事での経験がどの程度社外で通用するものか知りたくなり、技術士にチャレンジしようとしていたところ、JSPE 会員の友人より、PE の話を聞き、取得を決意しました。

②受験申請

2007 年10 月の東京FE 試験に合格した後、2008 年10 月に東京PE 受験と決め、2008 年7 月末日の締切日に受験申請を行いました。

③勉強方法

最初は上記 (1)Reference Manual を通読し、Lindeburg/Practice Problems を解こうと思っていましたが、PE を目指すものとしてあろうことか英語の読解にかなりの時間が掛かり、3 ヶ月後の試験までに一通り通読することが到底不可能だったので、下記の3)通りに場合分けして勉強しました。

1) 理解しているところは、Reference Manual のExample のみ解き確認

2) AISI,ASME,ASTM,SAE 等Reference Manual 特有の記載事項のみ通読

3) 分からないところ、苦手なところは(3)の日本語で記載された教科書を読み、それに記載の例題および問

題を解いた上で、Reference Manual の Example を解き、単位換算等に慣れる(結局、Lindberg/Practice Problems は買ったもののやらず仕舞でした。)また、すべての範囲を満遍なく勉強するのも時間が足りなかったため、午後の試験科目(Machine Design Depth)を重点的に、Machine Design(60%) > Fluids & Thermo(30%) > HVAC(10%)という時間配分となるよう心掛けて勉強しました。

(1)Reference Manual には、試験問題を解くのに便利な図表・数式が数多く収納されているので、問題を解きながら、どこにどういう図表・数式が載っているかを掴むことに留意しました。さらに、試験1ヶ月前からは、(2) Sample Questions & Solutions を活用し、本番に近い形式の問題に慣れるようにしました。

④試験前日～試験直前

自宅が神戸なので試験前日午後木場のホテルに到着し、1泊しました。前日は今更あがいてもしようがないので、勉強はほどほどにして10時頃には就寝しました。また、当日は晴れていたため散歩がてら木場から試験会場の豊洲まで20分強掛けて徒歩で向かいました。かなりリラックスして試験を迎えられたことは良かったと思います。

⑤試験

午前・午後ともに問題数は4時間で40問なので、1問あたり6分を目安に順序よく解いて行きました。4分掛けてあと2分で解けそうにない問題は取りあえず飛ばし、後で解くことにしました。とにかく焦らず落ち着くように心掛けました。

⑥受験生へのアドバイス

アドバイスなどという大層なものではありませんが、下記に3つ記載します。

1) 少ない勉強時間を自分なりに有効に活用して下さい。

平日にあまり勉強時間が取れなかったため、平日は通勤時間や帰宅後少しかの学習に留めて、休日にまとめて勉強することにしました。また、英語の速読力にも問題がありましたので、PEを目指している者にとっては邪道かもしれませんが、受かることが先決と割り切って日本語の教科書も多用しました。少ない勉強時間だとしても自分なりに有効に活用することを考えて頑張ってください。

2) JSPE、先輩PEを活用しましょう。

積極的にJSPE主催のPE受験セミナーに参加して情報収集しましょう。また、JSPE主催のCPDセミナーに出席したりして、先輩PE諸氏と交流することは非常にプラスとなります。最新の試験情報のみならず、先輩PEの試験勉強の方法、資料の整理方法等、ためになること満載です。また、先輩PE諸氏の意識の高さに触れることで、モチベーションが上がります。

3) 試験は落ち着きましょう。

試験は満点である必要はありません。6割程度の正答で合格とのことですので、解けない問題があっても焦らず、「3割捨ててもまだ7割」くらいの気持ちで臨めば案外リラックスできます。

2. 最後に

JSPE 関西のPE の皆様にはセミナー等を通じ、多くのアドバイスおよび叱咤激励頂きました。おかげさまで合格することができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。